

広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用に関する懇談会(報告書)

国立財務経営センターから広島市に無償譲渡された旧理学部 1 号館の保存・活用を協議する市有識者懇談会は平成 28 年度の最終第 5 回会合を平成 29 年 2 月 1 日に開催した。

メンバーは広島大学高田副学長のもと、小谷 広島経済大学副学長、桐木 広島女学院大学副学長、久保田 広島国際大学副学長、若林 広島市立大学副学長、頼 原爆遺跡保存運動懇談会座長、坪井 日本原水爆被害者団体協議会代表委員、谷村 広島商工会議所専務理事、曾根 広島経済同友会都市機能副委員長、村上 千田地区社協会長、弘法 広島大学本部跡地活用促進会会長が委員であった。

1 基本的な考え方

- ・ 旧理学部 1 号館はかつての学都広島として歴史を象徴する建物であり、また、被爆建物であることを踏まえ、「知の拠点」の核となり、新たな時代に向けて知の継承を図るとともに、被爆の実相を後世に伝えることができるよう、保存・活用する。
- ・ 保存・活用に当たっては、広島大学本部跡地全体が「知の拠点」としての機能が高まるような機能の導入を図る。

2 保存・活用の方向性

- ・ 被爆の実相を後世に伝え、未来に向けて平和への思いを、具体的な平和への取組み学習をする空間とする。
- ・ 多くの人が集い交流し、新たな知の賑わい空間を生み出す空間とする。
「幅広い世代に門戸を開いた広島ならではの平和に関する教育・研究や交流・活動を行う場」として活用する。また、複合的に「幅広い世代の人々が集い、多目的に活用できるコミュニティスペース」として活用する。
- ・ 中長期的に持続可能な用途、規模により、活用する建物の正面部分の森戸道路から見える象徴的な景観を基本的保存とする。
- ・ 保存・活用のための施設規模がさらに必要との議論によっては、その見込まれる事業策定と事業費が確保できれば、建物の保存または増築範囲を広げる。

注：(正面部分の保存が 3,500 m²の場合) 概算改修費 18.5 億円

(内訳) 耐震・中性化工事 6.4 億円、内外装・設備工事 10.3 億円、解体工事 1.8 億円



今後の検討の進め方

平成 29 年 1 月末に「広島市議会都市機能委員会」への報告がされた。

平成 29 年度、活用方策の具体化を図るため、地域の大学や関係者と連携しながら、具体的な導入機能等の検討を行うこととし、引き続き旧理学部 1 号館の保存・活用に関する懇談会を開催する。

及び、平和教育に関する検討会、コミュニティスペースの活用に関する検討会の懇談会を開催する。

平成 30 年度以降～に保存・活用の具体化を実施する。

広島大学跡地のうち、3 分の 1 エリアでは学生向け賃貸住宅など民間による再開発が進んでいる。

文責 (弘法寛三)